

埼玉親善大使レポート

留学先 カリフォルニア大学デービス校

千野 恵瑚

私は 2/9~3/12 の間、カリフォルニア大学デービス校において短期の語学留学を行いました。留学するに至ったきっかけは、同じ大学に在籍しているインドネシアからの留学生と関わるうちに、自分が日本という閉鎖的な環境でしか生きていないと感じさせられたためです。視座を高く持ち、世界的に使われている英語を本場で学ぶことによって自分の意見や考えを主張できるようになりたいと思い、留学を決意しました。

[コミュニケーションについて]

非常に重要だと感じたことは、相手の言語レベルに合わせて会話をすることです。私のホストファミリーは常に私の語学レベルに合わせて、ゆっくりとはっきり会話をして下さったため、コミュニケーションの不自由が全くありませんでした。これは言語の問題のみならず、目上の人と話すときや子供と話すときと同様で、コミュニケーションの基本であると思いました。そのおかげで私は臆せず英語を口にできるようになり、言語を学びやすい環境をいかにして提供できるかが多言語の習得に大きくかかわってくるのではないかと感じました。しかしながら、今は相手が自分に合わせてくれているだけの状態であり、対等な議論ができているとは到底呼べません。まだまだ研鑽が必要であると、この1か月を通じて強く感じさせられました。

[アメリカの大学について]

・大学の規模

私が滞在したカリフォルニア大学デービス校は、キャンパスが最大 22km に及ぶなど大学の規模が日本とは比べ物になりませんでした。それゆえ、キャンパス内での移動は自転車が普通で、自転車がないと非常に時間がかかってしまいます。日本では自転車というと前方に籠のつきたいいわゆる「ママチャリ」が普通ですが、アメリカでは籠のついていないスポーツバイクが主流です。これはアメリカの殆どの人がバックパックを使っており荷物を置く必然性がないためです。

・学生

世界各国から学生が集まっているため、様々なバックグラウンドを持つ人が学内にいます。人種のサラダボウルとはまさにこのことかと思われました。カリフォルニアに来てから非常に驚いたことが、他民族に対する受け入れが非常に寛容だということ

です。ある程度のアジア人差別はあるものだと覚悟はしていましたが、この地では全くなく、それぞれの違いを認めているのだと感じました。この傾向はカリフォルニア州で非常に顕著であり、保守的な州はそうではないようです。

・授業の厳しさについて

アメリカの大学は入学するのが簡単で、卒業するのが難しいとは留学前から聞いていました。実際に伺ったところ、デービス校では4年間で卒業できるのが全体の6割と確かに日本の大学よりは厳しいようです。しかし、経済学部や法学部などのビジネス学部はそれほど困難ではなく、主に工学やメディカル系学部が非常に難しいようです。この辺りは非常に日本とよく似ていると感じました。私は英語の授業を履修していましたが、日本とは異なり学生と共に授業を創り上げているという印象を強く受けました。それゆえ、発言する機会が多く、時間が過ぎるのが非常に早く感じました。

[文化について]

文化には様々な違いがありますが、根底にあるのは individualism(個人主義)と collectivism(集団主義)の差であるのではないかと思います。現地の人々は自分が何をしたいか、何をしたくないのかをはっきりと主張します。例えば、私がこれを使っても良いかと聞いて、ダメなときは間髪を入れずに No と言われます。日本では No とははっきり答えると全体の進捗に影響が出ないか、浮いてしまわないかと考えることが多いと思います。アメリカでは、人によって意見に違いが出るのが当たり前で、だからこそ話し合っ解決することが多いようです。確かに、全体を見て行動しているというよりは自分がその場で感じたことや考えたことをまず言ってみて、それから相手と討論しながら考えをまとめていくように感じました。どちらの考え方が正しいというものではないですが、日本人と話すよりも自分というものが確立されていると思いました。

[埼玉県について]

埼玉県の魅力を伝えるべく、ホストファミリーやその友人、キャンパスの大学生に話しかけ、知名度の向上に努めました。残念ながら、埼玉という単語を知っている人は話した中で一人もいませんでした。これが埼玉県の現状なのだとがっかりしましたが、東京に近いということを説明すると興味を持ってくれる人が多かったです。東京へ訪れる人が埼玉県まで足を運んでもらうような工夫が必要なのではないかと思います。

最後に、埼玉県奨学金制度によって貴重な体験をさせて頂いたこととお礼申し上げます。留学を迷っている方がいれば、是非一步を踏み出してみてください。